

# 平成 24 年度 公益社団法人大気環境学会 事業報告

(平成 24 年 8 月 1 日～平成 25 年 6 月 30 日)

## 1. 会員の状況

種 別	平成 24 年 7 月 31 日	平成 25 年 6 月 30 日	差引増減 (△)
正 会 員	1,011 名	992 名	△ 19 名
法人会員	185 名	185 名	0 名
学生会員	69 名	66 名	△ 3 名
賛助会員	55 団体 (71 口)	54 団体 (64 口)	△ 1 団体 (7 口)

## 2. 年会報告

平成 24 年 9 月 12 日 (水) ～14 日 (金) に関東支部の担当で、横浜市の神奈川大学横浜キャンパス工学部を中心とした会場において、第 53 回大気環境学会年会を開催した。参加者数は、正会員 406 名、学生会員 68 名、非会員 75 名であり、機器展出展／カタログ出展企業数は 18 社であった。

総会、受賞記念講演、特別講演、シンポジウム、特別集会、分科会、機器展が開催された。一般研究発表は、口頭発表 247 件、ポスター発表 98 件、あわせて 345 件であった。また、機器展出典企業による技術セミナーを開催した。

## 3. 総会開催

平成 24 年 9 月 13 日 (木) 神奈川大学横浜キャンパス 16 号館セレストホールにて平成 24 年度総会を開催した。

### 審議及び報告事項

- 1) 平成 23 年度事業報告及び収支決算報告
- 2) 平成 24 年度事業計画及び収支予算報告
- 3) 公益法人への移行
- 4) 大気環境学会定款の改訂
- 5) 第 54 回大気環境学会年会開催地
- 6) その他

## 4. 理事会等開催

### (1) 常任理事会

- 1) 定例の会議を次のように開催した。

平成 24 年 8 月 23 日、平成 24 年 10 月 17 日、平成 24 年 12 月 19 日、平成 25 年 3 月 21 日、平成 25 年 4 月 25 日、平成 25 年 6 月 14 日 (大気環境学会会議室、電力中央研究所)。また、緊急常任理事会を平成 24 年 11 月 2 日に開催した。

- 2) 国の入札資格取得について

調査研究に関する国の入札資格を取得する方針を決定し、資格審査申請を行った結果、平成 25～27 年度の競争入札資格が取得できた。資格の種類は「役務の提供」(調査・研究)、等級は「D」(300 万円以下)

である。

### 3) 著作権ポリシーの決定

編集委員会における検討結果を受け、平成 25 年 6 月 14 日、「公益社団法人大気環境学会著作権ポリシー」を決定した。この本文は、学会ホームページに掲載した。

## (2) 理事会

### 1) 定例の会議を次のように開催した。

第 1 回：平成 24 年 9 月 11 日（神奈川大学横浜キャンパス）、第 3 回：平成 25 年 5 月 15 日（電力中央研究所）。

### 2) 理事・役員の選任

選挙実施に伴う役員選定のため、平成 24 年 9 月 13 日（神奈川大学横浜キャンパス）に第 2 回理事会を開催した。この結果に基づき、内閣府へ代表理事及び理事変更等の届け出を提出し、処理が完了している。

### 3) 平成 25 年度事業計画及び収支予算の承認

定款に従い、第 3 回理事会において、平成 25 年度の事業計画及び収支予算案等の審議を行い、承認された。この結果は、平成 25 年 6 月 28 日内閣府に提出し、審査が完了している。また、学会ホームページに掲載した。

## (3) 支部長会

平成 24 年 9 月 11 日（神奈川大学横浜キャンパス 23 号館会議室）にて開催し、各支部の報告が行われた。

## 5. 出版等

(1) 大気環境学会誌：第 47 巻 5 号～第 48 巻 4 号の計 6 号を刊行した。

(2) 第 53 回大気環境学会年会講演要旨集 B5 版にて刊行した（年会事務局）。

(3) 日韓大気環境学会合同英文誌 AJAE (Asian Journal of Atmospheric Environment) Vol.6 No.3、No.4、Vol.7 No.1、No.2 が刊行された。

## 6. 委員会開催

### (1) 倫理委員会

第 55 回年会開催期間中の平成 24 年 9 月 13 日に倫理委員会を開催し、平成 23 年度活動報告や今後の課題について審議した。学会誌の投稿論文査読時における倫理審査に関し、編集委員会と協議して、2012 年 9 月に「投稿の手引き」に倫理的配慮に関する項目を追加した。本改訂の背景や経緯に関する解説記事を学会誌第 48 巻 1 号の「委員会だより」に掲載した。

### (2) 編集委員会（編集実務委員会）

1) 編集委員会を平成 24 年 9 月 14 日に、また、編集実務委員会を平成 24 年 11 月 9 日、平成 25 年 1 月 19 日、平成 25 年 3 月 18 日、平成 25 年 5 月 16 日、平成 25 年 7 月 22 日に開催して学会誌の編集企画を行い、合計 6 号（第 47 巻第 5 号～第 48 巻第 4 号）を刊行した。

2) 今年度は学生・若手論文の掲載が少なく、「学生・若手研究者の論文特集号」とすることなく、第 48 巻第

1に原著1編を掲載した。

- 3) 入門講座(「化学物質のリスク評価と管理」(計4回、第4講:第47巻第5号)、「地球温暖化」(計5回、第1講:第48巻第3号)、関東支部講演会報告「改善されない光化学大気汚染問題に我々はどうに対応するか3」(第48巻第3号)、研究室・職場紹介(計5回)などの読み物を掲載した。
- 4) 今冬の中国におけるPM2.5高濃度問題を受けて、「我が国および中国におけるPM2.5大気汚染問題」に関連する当学会誌掲載論文を大気環境学会WEBに掲載した。
- 5) 大気環境学会著作権ポリシーを検討し、常任理事会に提案した。」
- 6) 学会誌の中期的方向性に関して、①査読・編集機能の電子システム化、②学会誌の電子ジャーナル化、③コンテンツの充実、④AJAEと関係、⑤インパクトファクターの取得、⑥支出抑制・収入増加策について引き続き検討を行っている。①、②、⑥に関連した検討を行い、第49巻第1号から印刷会社を変更することとした。

### (3) 国際交流委員会

- 1) 第55回年会開催期間中の平成24年9月12日にAJAE(日韓大気環境学会合同英文誌)編集委員会との合同委員会を開催し、日韓学術交流セミナー覚書、韓国大気環境学会への日本からの派遣、AJAEの活動と課題、今後の日韓交流等について審議した。
- 2) 平成24年10月25-26日に韓国・慶山市の麗南大学校で開催された韓国大気環境学会年会・日韓国際シンポジウムに若松会長ほか2名が参加して交流を深めるとともに、AJAEの状況や今後の取組みについて協議した。
- 3) AJAE編集委員会は韓国大気環境学会と協力して、AJAE4号(Vol.6 No.3~4、Vol.7 No.1~2)を刊行するとともに、電子編集システムを導入して平成25年3月から運用を開始した。

### (4) 学会賞選考委員会(論文賞選考小委員会)

- 1) 学会賞選考委員会  
平成25年6月14日、大気環境学会賞の各賞の選考を行ない、学術賞1件、進歩賞1件、功労賞1件を推薦した。大気環境学誌論文賞の選考を行ない、学術部門3件、進歩部門1件、学生・若手部門2件を推薦した。9月17日の理事会で承認し、9月19日の総会で表彰する。
- 2) 論文賞選考小委員会  
平成25年6月6日、大気環境学会誌第47巻及びAJAE誌に掲載の論文について大気環境学会論文賞の選考を行い、論文賞6件を学会賞選考委員会に推薦した。

### (5) 広報委員会

- 1) 活動状況
  - ① 学会広報体制の充実  
平成24年度においては、見やすく使いやすい学会ホームページにすることを優先課題として、学会事務局と共に作業を進めてきた。その結果、学会ホームページのトップページや内容などがかなり充実した。
  - ② 新システムにおける情報更新体制について

平成24年度途中から、学会事務局に掲載依頼された内容を事務局長が掲載の可否等を検討し、ホームページの委託先に依頼するシステムに変更した。これにより、迅速なホームページの管理が可能になった。

### ③ 環境工学連合講演会への参画

平成25年4月18～19日の2日間、日本学術会議講堂において第26回環境工学連合講演会が開催された。大気環境学会からは、関口和彦氏(埼玉大学)を推薦し、「都市部大気中超微小粒子の大気挙動把握と室内空間を対象としたVOCガスの処理技術」の講演が行われた。

#### 2) 委員会開催

広報委員会では、電子メール等を利用して会議を行った。ホームページの委託先と学会事務局との打ち合わせも、電子メールを介して行った。

### (6) 企画運営委員会

#### 1) セミナー・展示会の開催準備

下記のセミナー・展示会開催に向けて、企画、講演者の選定・依頼、会場準備、実行委員会の開催等を行った。

#### 2) PM2.5の計測・観測に関するセミナー・展示会の開催(\*平成25年度事業)

2013年7月19日(金)(慶應義塾大学三田キャンパス 北館ホール)、参加者:約120名

テーマ:「PM2.5の計測・観測に関するセミナー・展示会」、講演5件、話題提供5件

- ① PM2.5の概要、内藤季和(千葉県環境研究センター)
- ② 東京都におけるPM2.5調査、上野広行(東京都環境科学研究所)
- ③ 微小粒子状物質(PM2.5)対策の動向、後藤隆久(環境省水・大気環境局大気環境課)
- ④ 北部九州および都市におけるPM2.5など微小粒子の観測と大気中の動態、高見昭憲(国立環境研究所)
- ⑤ 東シナ海上空を長距離輸送されるPM2.5の地上観測およびエアロゾルの航空機観測、畠山史郎(東京農工大学)

・PM2.5計測・観測関連企業による話題提供

- ① グリーンプルー(株) 「PM2.5の測定とデータ監視ツールの紹介」
- ② 柴田科学(株) 「PM2.5 デジタル粉じん計のご紹介」
- ③ 東京ダイレック(株) 「様々なシーンに対応するPM2.5測定機器紹介」
- ④ オリックス・レンテック(株) 「PM2.5測定機器の新しい導入方法について」
- ⑤ ムラタ計測器サービス(株) 「PM2.5成分分析用カウンタ(MCAS-SJ)のご紹介」

### (7) 産官学民連絡協議会

第53回大気環境学会(横浜市)機器展において、出典の企業に挨拶を行い、大気環境学会への協力を依頼した。

## 7. 支部報告

### (1) 北海道・東北支部

## 1) 支部総会、支部学会等の開催

平成 24 年 10 月 19 日（札幌市北海道大学工学部）、支部総会、支部学会、幹事会を併催。

- ・ 支部総会：平成 23 年度支部活動報告、決算報告、平成 24 年度支部活動方針、予算案（次回支部総会は岩手県にての開催が決定）。
- ・ 支部学会：総会と同会場にて開催した。一般講演 14 題、ポスター 11 件、であった。また、福島第一原子力発電所事故による放射性物質の大気中への放出・拡散に関する特別セッションを開催した。参加者は約 60 名であった。
- ・ 特別セッション
  - ① 北海道における土壌中の放射性物質濃度の測定、竹内敦（北海道大学）
  - ② 福島事故由来放射性セシウムと大気エアロソル、兼保直樹（産業技術総合研究所）
  - ③ 放射性物質の大気中の挙動、渡邊明（福島大学）
- ・ 幹事会：総会に併せて支部幹事会を開催した。平成 23 年度支部活動報告、決算報告、平成 24 年度支部活

部活

動方針、予算案等。

## 2) 支部のホームページを開設：<https://sites.google.com/site/jsaehokkaidotohoku/>

## (2) 関東支部

### 1) 支部総会、講演会等の開催

平成 25 年 6 月 7 日（金）（ムーブ町屋ムーブホール）

- ・ 支部総会：支部規約改定、平成 24 年度支部・部会活動報告、平成 24 年度中間会計報告・監査報告、平成 25 年度予算、平成 25 年度活動計画、参加者：100 名
- ・ 関東支部講演会の開催（全環研関東甲信静支部及び大気環境学会植物分科会と共催）  
テーマ： 「PM2.5による大気汚染の現状と今後」、4講演、参加者：141名
  - ① 大気中における微小粒子状物質 (PM2.5) の動態、坂本和彦 (埼玉県環境科学国際センター)
  - ② 我が国のPM2.5対策の現状と課題、大森豊緑 (環境省水・大気環境局)
  - ③ 健康影響と注意喚起のための暫定指針について、内山巖雄 (京都大学)
  - ④ 近年の発生源の特徴、杉本伸夫 (国立環境研究所)

### 2) 支部役員会：第 1 回（平成 24 年 10 月 24 日）、第 2 回（平成 25 年 1 月 17 日）、第 3 回（平成 25 年 3 月 1 日）、第 4 回（平成 25 年 5 月 22 日）

### 3) 関東支部会員のメールアドレスの収集

支部所属の正会員と名誉会員についてメールアドレスを収集し、連絡の効率化を図った。関東支部には正会員と名誉会員併せて 534 名が所属しているが、連絡可能なメールアドレスの収集率は約 75% である。

### 4) 部会活動報告

健康影響、酸性雨、室内環境、予測計画評価、植物影響、化学反応、粒子状物質及び大気質調査の各部会で、講演会等を開催した。

### (3) 中部支部

#### 1) 総会・評議員会、学術講演会の開催

平成 24 年 12 月 15 日(土) (NICO プラザ)

- ・ 支部総会：平成 23 年度の経過報告・決算報告・会計監査報告、平成 24 年度決算見込み、平成 25 年度事業計画案・予算案
- ・ 学術講演会：特別講演 1 件、一般発表 3 件、参加者 27 名  
特別講演「バイオマスエネルギーの形態別将来動向と利用事例」、金熙濬(新潟大学)

### (4) 近畿支部

#### 1) 支部総会・シンポジウム、運営幹事会の開催

平成 24 年 12 月 14 日(金) (キャンパスポート大阪)

- ・ 支部総会：平成 23 年度事業報告・収支決算報告、部会報告、平成 24 年度事業計画・予算案
- ・ シンポジウム 「三次元数値モデルによる大気質予測の可能性」
  - ① 領域気象モデル WRF を用いた局地的な雲・降水システムの数値シミュレーション、竹見哲也(京都大学)
  - ② 排ガス拡散数値モデルの開発とアセスメントへの適用、市川陽一(龍谷大学)
- ・ 運営幹事会：第 1 回(平成 24 年 12 月 14 日(金))、第 2 回(平成 25 年 3 月 1 日(金))

#### 2) 支部研究発表会：2012 年 12 月 26 日(水)、特別講演 1 題、一般発表 10 題

- ・ 「環境放射線測定と原子力発電所」、都築英明(明治国際医療大学)

#### 3) PM2.5 シンポジウム：2013 年 4 月 27 日(土)、「PM2.5 に関するシンポジウム」講演 3 題

- ① 「PM2.5 とは」、平木隆年(財)ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター)
- ② 「PM2.5 が人の健康に及ぼす影響」、島正之(兵庫医科大学)
- ③ 「PM2.5 汚染の実態」、板野泰之(大阪市立環境科学研究所)

#### 4) 部会活動報告

気象拡散部会、反応と測定部会、人体影響部会、エアロゾル部会の各部会で、講演会等を開催した。

### (5) 中国・四国支部

#### 1) 支部総会、講演会等の開催

平成 25 年 2 月 2 日(土) (愛媛大学農学部)

- ・ 拡大総会：平成 23 年度会計報告
- ・ 公開講演会：講演 2 件、一般発表 11 件
  - ① 日本で最初の公害防止に関する覚書について—1952 年の島根県と 2 つの民間会社による覚書の経緯と意義—、井上堅太郎(岡山理科大学非常勤講師)
  - ② 大気環境研究の今後の課題、若松伸司(愛媛大学農学部)

#### 2) 幹事会：平成 23 年度会計報告、3 学会合同講演会の準備

#### 3) 第 56 回年会準備会議：第 1 回(平成 25 年 2 月 2 日(土))、第 2 回(平成 25 年 5 月 17 日(金))

#### 4) 大気、水、廃棄物、3 学会中国四国支部合同公開市民講座

平成 25 年 5 月 17 日（金）（(財) 広島県地域保健医療推進機構大研修室）

※ 新聞、テレビ宣伝、薬局折り込みチラシなど、宣伝に力を入れた。参加人数は市民 100 名、学会関係者、全環研等、計 150 人の集客ができた。

テーマ「[PM2.5] を中心とした「新たな地球環境問題」～専門家に聞く正しい知識と健康影響～」

- ① 「PM2.5 および黄砂の健康影響」、渡部仁成（鳥取大学医学部）
- ② 「PM2.5 および黄砂の生成と輸送」、若松伸司（愛媛大学農学部）
- ③ 「総合曝露影響評価手法の開発と国際連携」、中山 祥嗣（国立環境研究所）

## （6）九州支部

### 1) 支部総会、役員会の開催

平成 25 年 1 月 25 日（アクロス福岡）

- ・ 支部総会・役員会：平成 23 年度事業実施報告及び収支決算、平成 24 年度事業計画及び予算について

### 2) 研究発表会の開催

平成 25 年 1 月 25 日（アクロス福岡）、特別講演 1 件、一般講演 9 件

- ・ 特別講演：下原孝章（福岡県保健環境研究所）「大気汚染の野外観測からその対策をめざして」

## 8. 分科会報告

### （1）健康影響分科会

#### 1) 年会分科会：平成 24 年 9 月 12 日（第 53 回大気環境学会年会、神奈川大学）

都市大気エアロゾル分科会共催「都市大気における粒子の生成とその生体影響」、講演 4 件

#### 2) 放射能汚染ジョイントセミナー「生活環境から放射能汚染を考える」の開催

平成 25 年 2 月 18 日（月）（国立環境研究所）、国立環境研究所放射性物質・災害環境研究チーム、国立保健医療科学院生活環境研究部共催、講演 7 件、参加者約 130 名

- ① リスクコミュニケーション、樺田尚樹（国立保健医療科学院）
- ② 流域環境における放射性物質の動態、林誠二（国立環境研究所）
- ③ 放射性物質の環境モデリング、今泉圭隆（国立環境研究所）
- ④ 水道における放射性物質の課題、浅見真理（国立保健医療科学院）
- ⑤ 水道における放射性物質の課題、大野浩一（国立保健医療科学院）
- ⑥ 放射能汚染廃棄物、大迫誠浩（国立環境研究所）
- ⑦ 環境への放出から生活環境への影響に至る経路の総合解析、森口祐一（東京大学大学院）

#### 3) 健康影響分科会「環境問題における健康リスクコミュニケーションの諸問題」の企画

第 54 回大気環境学会年会における講演会を企画した。下記の演題・演者の方による講演と総合討論を予定している。

- ① 科学とリスクのコミュニケーション、標葉隆馬（総合研究大学院大学）
- ② PM2.5 の健康影響についてのリスクコミュニケーション、島正之（兵庫医科大学）
- ③ 東京電力福島第一原子力発電所事故後の放射線のリスクコミュニケーション、樺田尚樹（国立保

健医療科学院)

(2) 環境大気モニタリング分科会

- 1) 年会分科会：平成 24 年 9 月 12 日（第 53 回大気環境学会年会、神奈川大学）  
テーマ「環境大気モニタリングに関する最近の話題」、講演 3 件

(3) 植物分科会

- 1) 年会分科会：平成 24 年 9 月 12 日（第 53 回大気環境学会年会、神奈川大学）  
テーマ：「日本のブナ林の生態的特徴と大気環境」、講演 2 件
- 2) 講演会（関東支部植物影響部会との共催）  
平成 24 年 12 月 7 日（金）、東京都環境科学研究所
- ① 「イネの収量はオゾンでなぜ落ちるのか?」、塚原啓太（筑波大学）
- ② 「ポータブル CO<sub>2</sub> 環境計測器の開発と里山や CO<sub>2</sub> 泉の周囲 CO<sub>2</sub> 濃度への影響評価」、安田倫己（静岡県立大学）
- 3) 世話人選挙と世話人会議
- ・ 平成 25 年 6 月に世話人選挙を実施
  - ・ 世話人会議：平成 24 年 9 月 12 日、平成 24 年 12 月 7 日、平成 25 年 4 月 17 日

(4) 酸性雨分科会

- 1) 年会分科会：平成 24 年 9 月 12 日（第 53 回大気環境学会年会、神奈川大学）  
テーマ：「酸性雨・広域大気汚染研究におけるモデルシミュレーションへの取り組み」、講演 3 件
- 2) 東京講演会 平成 25 年 2 月 27 日（水）（法政大学小金井キャンパス）  
テーマ：「越境大気汚染・エアロゾル研究と若き研究者の育成」、若手研究者講演 7 件、講演 1 件、特別講演 1 件
- ・ 講演：「山岳（長野県八方尾根）におけるエアロゾル観測」、鹿角孝男（長野県環境保全研究所）
  - ・ 特別講演：「東アジアからの大気汚染物質・エアロゾルの長距離輸送－航空機観測を中心として」、畠山史郎（東京農工大学）
- 3) 大阪講演会：平成 24 年 7 月 26 日（木）（名古屋大学）（\*年度変更のため、掲載）  
テーマ：「災害と大気汚染」、特別講演 1 件、講演 2 件
- ・ 特別講演：「原発事故の大気環境影響と予測の可能性」、山澤弘実（名古屋大学）
  - ・ 講演 1 「東日本大震災とその後の環境保全」、北村洋子（宮城県保健環境センター）
  - ・ 講演 2 「滋賀県大気シミュレーションモデルによる光化学オキシダント及び放射性物質の拡散予測」、園正（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）
- 4) メールニュースの発行、酸性雨ホームページの更新

(5) 自動車環境分科会

- 年会分科会：平成 24 年 9 月 12 日（第 53 回大気環境学会年会、神奈川大学）  
テーマ「自動車の排出ガスおよび燃費規制の環境改善効果と今後のあり方」、講演 5 件

(6) 都市大気エアロゾル分科会



- 1) 年会分科会：平成 24 年 9 月 12 日（第 53 回大気環境学会年会、神奈川大学）  
健康影響分科会共催「都市大気における粒子の生成とその生体影響」、講演 4 件
- 2) 学術講演会：平成 25 年 3 月 1 日（名古屋大学、日本エアロゾル学会都市大気の PM2.5 研究会主催、都市大気エアロゾル分科会・大気環境学会中部支部共催）
  - ・ 講演 3 件、一般講演 4 件
  - ① 「大気エアロゾル中のイオン成分および無機元素成分の粒径別高時間分解能観測による黄砂と人為起源物質の越境輸送の詳細解析」、辻昭博（京都府山城北保健所）
  - ② 「微小エアロゾル粒子の光吸収特性：ブラックカーボンとブラウンカーボン」、中山智喜（名古屋大学）
  - ③ 「ガス態アンモニアと粒子態アンモニウム濃度の連続観測」、長田和雄（名古屋大学）
- 3) 学術講演会：平成 25 年 3 月 19 日（波止場会館、関東地方大気環境対策推進連絡会浮遊粒子状物質調査会議主催、都市大気エアロゾル分科会他共催）
  - ・ 講演 4 件
  - ① 「PM2.5 成分分析に係る動向について」、山口恒平（環境省）
  - ② 「関東甲信静における PM2.5 のキャラクタリゼーション ～ 関東 SPM 合同調査 平成 23 年度調査のまとめ～」、小松宏昭（神奈川県環境科学センター）
  - ③ 「夏の関東における大気中での微小粒子の起源と動態～化学組成と 14C の測定に基づく統計解析とシミュレーションからわかったこと～」、伏見暁洋（国立環境研究所）
  - ④ 「全国の地環研と国環研による PM2.5 実態解明および発生源寄与評価の取り組みと、2011 年 11 月に関東で観測された PM2.5 高濃度の解析」、長谷川就一（埼玉県環境科学国際センター）

#### (7) 都市大気環境モデリング分科会

- 1) 年会分科会：平成 24 年 9 月 12 日（第 53 回大気環境学会年会、神奈川大学）  
テーマ「大気環境行政とシミュレーション」、講演 4 件
- 2) モデル相互比較ミーティングの開催：平成 25 年 2 月 22 日
- 3) 国際セミナーを共催：平成 24 年 8 月 16 日（環境省環境研究総合推進費 C-1001、「わが国都市部の PM2.5 に対する大気質モデルの妥当性と予測誤差の評価」）  
テーマ「微小粒子状物質(PM2.5)対策検討のための大気質モデルの改善」、講演 3 件
  - ① Inter-comparison Study for Improvement of Model Performance for Simulating Urban PM2.5 in Japan, Hikari SHIMADERA (Central Research Institute of Electric Power Industry, Japan)
  - ② Aerosol Dynamics Modeling: Emphases on Wet Deposition and Optical Property Estimation, Yong-Pyo KIM (Ewha Womans University, Korea)
  - ③ 3-D Air Quality Modeling: Sciences, Tools, and Policy Implications, Yang ZHANG (North Carolina State University, USA)

#### (8) 臭気分科会

- 1) 年会分科会：平成 24 年 9 月 12 日（第 53 回大気環境学会年会、神奈川大学）  
テーマ「ペット臭の原因と対策」、講演 2 件
- 2) ペット用消臭剤の消臭効果の体験会

分科会当日に、ペット臭に対する消臭剤の消臭効果の体験会を実施

(9) 室内環境分科会

1) 年会分科会：平成 24 年 9 月 12 日（第 53 回大気環境学会年会、神奈川大学）

テーマ「省エネルギー下における室内環境」、講演3件

平成24年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので作成しない。

平成25年9月

公益社団法人 大気環境学会